焼津市歴史民俗資料館

Yaizu City Museum of History and Folklore

Museum Letter

資料館だより

115号

鬼平ゆかりの地を歩く

池波正太郎さんの作品で小説、ドラマ、映画、アニメ、漫画と幅広い世代に人気の「鬼平犯科帳」。その「鬼平犯科帳」の主人公長谷川平蔵が焼津にゆかりのある人物って知ってた？

昔、焼津の小川地区には小川城があって、その城主、長谷川氏が長谷川平蔵の祖先なんだって！

いや～びっくりだね。長谷川平蔵は物語の中だけの人物と思いきや、実在した人物だったことにも驚きだけど、その祖先がこの焼津の地にあった小川城城主長谷川氏であることに驚きを隠せないよ。

今回は、そんな鬼平ゆかりの地を紹介するよ！

鬼平の祖　長谷川氏

小川城主の長谷川氏は、今川氏の家督争い（文明の内訌）の際、伊勢新九郎盛時（北条早雲）と連携し、今川義忠の遺児・龍王丸（のちの今川氏親）を助けるなど、軍事、政治面で今川氏を支えました。

また、長谷川正宣と元長は今川家に仕えた連歌師宗長と誼を通じる文化人でもあったとされます。

小川城跡からは、中国大陸産の陶磁器類などが発見されており、今川氏が駿河にもたらした当時の進んだ文化を享受していたことを物語ります。

鬼平の祖は、文武に秀でた一族として「山西」と呼ばれた焼津の地に自立していたのです。

高草山 林叟院

やまどんのこばなし

林叟院はもとは現在の小川港付近にありました。

ある日、どこからともなく１人のお坊さんが、「ここは危ない。お寺を移す方がいいでしょう。その場所を教えます。」といって、高草山の麓までいくと、「この地に」と指をさしたとたんそのお坊さんは消えていました。

お寺を移した次の年の８月、大地震が起こり、津波で元のお寺があった場所は海に沈んでしまいました。

大正時代までは、船の上から海の中を覗き込むと、元の林叟院の石垣や、建物の跡が見えたそうです。

小川城主・長谷川正宣を開基とします。「山西の有徳人」「法永長者」と称された正宣は鬼平・長谷川平蔵の祖にあたります。境内には正宣夫妻の墓碑が残ります。

長谷山 信香院

最後の小川城主・長谷川正長が開基。武田信玄の駿河侵攻に際し、正長は田中城に移り、その後、三方ヶ原に転戦し討死。信香院に葬られました。

鬼平は正長の次男・宣次から八代後の子孫になります。

小川城跡

長谷川平蔵の祖、小川城主・長谷川氏が住んでいた小川城跡です。現在の西小川あたり一帯が小川城でした。

天守閣のあるお城ではなく、屋敷と言った方がイメージしやすいかもしれません。

現在は、小川城跡の表門があったあたりに、石碑のみが残っているだけです。

小川城跡は発掘調査から様々な遺物が発見され、国内外での交易が行われていたと考えられます。

現在、出土した遺物は焼津市歴史民俗資料館で一部ご覧いただけます。

しずおか遺産認定記念特別展

今川を支えた、長谷川氏にせまる！

焼津市歴史民俗資料館では、長谷川平蔵の祖、長谷川氏に焦点をあてた特別展を開催中。

財力、人脈で、氏親、氏輝、義元、氏真と４代にわたりおよそ百年間、今川氏を支えた、長谷川一族が見つめた今川の盛衰を様々な角度からご紹介しています。

鬼平ゆかりの地とともに、展示をとおして「焼津」と「今川」の関係、そして長谷川氏について知っていただければと思います。

会期：令和６年７月６日（土）～10月14日（祝）

休館日：月曜日（ただし、祝日の場合は翌平日）

入場無料

学芸員お推し

Vol.6

今回の学芸員の推しを担当するのは…

現在歴史民俗資料館の中では最年長！大ベテランの丸山学芸員です。

生まれは藤枝市内で、田中城址の中に建つ西益津小・中学校で学び、歴史に興味を持つようになったそうです。さらに、高校時代に巡り合った先生方の助言もあり、奈良の地で歴史を学び、埋蔵文化財の発掘調査に携ったと語る丸山学芸員の推しは？

宮之腰遺跡です

やはり、そこを推してくるのですね！

では、思う存分語ってください！

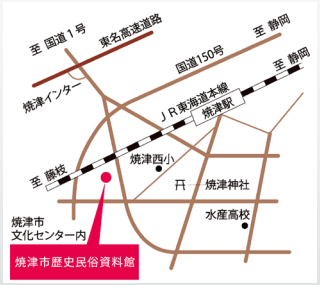
私の推しは、市内各地から出土した遺物群です。中でも、複合施設である文化センターに歴史民俗資料館展示室が設置される契機になったと思われる、宮之腰遺跡の発掘調査に携ったことが、私の原点のひとつです。焼失家屋として発見された宮之腰遺跡の竪穴住居跡は、方形、四本柱で、竈があり、炭化した建築材が残り、葦状の草壁遺構も残っていました。草鞋とみられる遺物もみつかり、細かなところは、竹へらや筆を使用して土を取り除きました。

貴重な遺構や遺物が見つかったとき、各地で報道されるのは、遺跡見学会開催の話題が多いのですが、発掘調査を行うためには、盛り土を除去するために重機を使用したり、ひたすらスコップで掘り下げる作業もあります。

現在は、宅地・水田・畑地・空き地などとなっている土地の地下に昔の人の生活の痕跡が埋まっていることは、考えてみると不思議な気がします。そこに生活していた事実はあるのに、なぜ、埋もれているのか、いつ移動したのか、原因は地震・津波などの自然災害か、火災か、食料の確保か、定住する条件は何か。様々なことを考えると現代の生活につながるものがあると思います。

弥生時代や古墳時代など、教科書で学ぶ時代の生活を歴史民俗資料館展示室で想像していただきたいと思います。

宮之腰遺跡から出土した遺物



@YAIZU.HEARN.REKI.MUSEUM

【発行・問合せ】
焼津市歴史民俗資料館
〒 425-0071
静岡県焼津市三ケ名 1550
☎ 054-629-6847
【表紙写真】
林叟院（焼津市坂本）

やまじんのお部屋

今回はやまじんのお部屋にある氷冷蔵庫を紹介するよ！

氷冷蔵庫は、氷を入れて中を冷ひやす道具で明治の終り頃に登場したんだ。木製の箱の内側にブリキの板をはり、冷たい空気がにげないようになっていて、上下がつながっているんだ。上の段に氷を入れ、下の段にたべものを入れて冷やす仕組みだよ！冷たい空気は下にいく性質を利用した冷蔵庫だね！下の段にとけた氷の水が落ちて、たべものをぬらさないように、外に水が出ていくようになっているよ！昭和30年頃になると電気冷蔵庫がみんなのおうちでふつうに使われるようになり、だんだん使われなくなったんだ。

焼津は港町で、氷屋さんが港の近くにあったから、子どもたちが氷屋さんに氷を買いに行くっていうお手伝いもあったんだって！